

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	徘徊高齢者等家族支援サービス事業			会計	款	項目	大	小
政策	O4	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	介護支援課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	菊池 義博			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	徘徊高齢者を介護する家族	意図	徘徊高齢者の安全が確保され、徘徊高齢者を介護する家族の経済的負担が軽減される。
事業内容	認知症等で徘徊する高齢者を在宅で介護する家族に対し、事業者が行う徘徊高齢者家族支援サービスを利用した場合、契約時の登録手数料の一部を助成する。			
事業開始から現在までの状況変化	事業費は、地域支援事業交付金として交付される。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	助成件数（年間）	1	0	1	件	→→	
②								
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 認知症高齢者を介護している家族への支援として、平成18年度からは、介護保険の地域支援事業として支給をしている。 しかし、対象となる経費が初回の登録料等のみであることや、ここ数年GPS機能付きの携帯電話が普及したことにより、申請者が少なくなっている。 周知については、他制度と共にサービス一覧に掲載し窓口配布したり、ホームページへの掲載、家族の集い等での周知を行っている。		
事務事業のコスト		平成27年度	平成28年度	平成29年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		81,300	68,650	72,120				
事業費(b)(円)		6,000		5,000				
うち一般財源								
職員給与と費(c)(円)		75,300	68,650	67,120				
人役・職員(人)		0.01	0.01	0.01				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	事業内容の検討のため、他市等の情報収集を行う。相談があった際、サービスの案内をするとともに、他事業と連携し周知の機会を設ける。	③取組の課題	相談があった際はサービスを案内しているが、利用につながる件数が少ない。実効性のあるサービスとするため検討が必要である。
②今年度(H29)に実施した取組	徘徊高齢者のためのシステムについて情報を収集した他、介護者を対象とする事業（ちょっともっと介護塾）でチラシを配布し周知した。	④今後(H30以降)の改善計画	本サービスの対象となるような製品について、例として具体的に情報提供をするとともに引き続き、他自治体の取組を研究し、今後の事業展開を検討する。